

TOP インタビュー

地球温暖化防止に取り組む企業や学校を表彰する「低炭素杯2017」で、「最優秀エコーガニック賞」を受賞した養鶏会社「倉持産業」(常総市)。鶏卵出荷数が日本一の茨城で、鶏舎などの環境改善に取り組む倉持一彦社長(54)に、その理由と今後の展望を聞いた。(聞き手・横溝崇)

倉持産業

倉持一彦 社長



鶏舎の冷暖房効率向上

界では珍しい「省エネ・環境改善提案部」を社内新設し、さらに改善に力を入れてきた。ようやく花が咲いてきた。

かなと思っ

「なぜ、専門部署を設置したのか。」

「養鶏業を含む畜産は、に

1962年生まれ。中央大学を卒業後、愛知県の飼料会社や養鶏会社などの修業を経て、倉持産業に入社。2001年7月から社長を務めている。

「現在は約2万羽を平飼いしている。欧州で主流の飼育法で、機材もオランダから仕入れている。平飼い卵の味も好評で、100万羽単位で飼育する大手との差別化を図っている。」

おいや汚れて近隣に迷惑をかけてしまう部分が昔からあった。そこを何とか改善したかった」

「効果が出たものは。」

「受賞理由にもなった、遮熱・断熱塗料とLED灯が大きい。塗料は、夏は暑く冬は寒かった本社の天井や壁にも塗った。天井は気分が良くなるように空色にして。おかげで、冬は社内がダウンジャケットを着なくて済むようになった。塗料は鶏舎も含めて1

「環境改善の目標は。」

「今後は発電事業も始めて、農場の電力を自力でまかなえるようにしたい。面積や、バイオマス発電に使える材料もある。新たに挑戦してみたい」

(トップインタビューは今回で終わります)

設立は1961年。倉持社長の父・新一氏が、旧水海道市の自宅を拠点に、配合飼料や鶏卵の販売を始めた。本社と茨城町に選別・包装工場を構え、自社農場では1日約30万個の鶏卵を出荷している。

低炭素杯では、鶏舎の屋根に遮熱・断熱塗料を塗ることで冷暖房効率を向上させたことが評価された。

「入社以来、環境改善に努めていたが、2009年に業